

リスクアセスメント & 作業手順書

工事名称	2024年度 東海北陸自動車道 高山管内維持修繕業務 断面修復・排水管補修		作成会社名	中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋株			
工期	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日		作成者	金子 歩夢			
作業名称	断面修復及び排水管漏水対策	作業手順書	作成年月日	令和4年4月21日			
使用機械 使用設備 (具体的な名称・クラスを記す)	黄バト、、材料運搬車		現場責任者				
			協力会社	会社名			
使用工具 機器 (大きき太き等は具体的な寸法を記す)	チッパー、ハンマードリル、飛散防止ネット、鑿、接頭ハンマー、フロアー、ワイヤーブラシ		協力会社責任者	自筆サイン			
	インパクトドライバー、コテ、発電機、延長コード、ディスクサンダー、スコップ、攪拌機、刷毛						
保護具	安全靴、ヘルメット、安全チョッキ(点滅)、手袋、防護メガネ、防護マスク、反射脚絆		作業順序				
	普通自動車運転免許、準中・中・大型自動車運転免許						
免許・資格等 (免)(技)(特)(準特)の区別を記す	振動工具取扱作業(特)				1	準備作業	
					2	工事車両進入	
作業人員 (当作業に関わる役割と人員を全て記す)	断面修復:2~3名、剥落対策:2~3名、目地埋め:1~2名				3	断面修復	
	断熱材の設置:2~3名、ます清掃:1~3名、片付:全員				4	剥落対策	
作業手順 周知会 参加者 サイン (記録)	作業責任者(職長)	周知会実施日			令和 年 月 日	5	目地埋め
	(役割を確認してこの作業に関わる全員が自筆サインする)					6	断熱材設置
						7	ます清掃
						8	後片付け
				9	現場離脱		

リスクの見積り	重大性			組み合わせ	リスクの評価	優先度又は実施担当者
	○:軽微 休業4日未満	△:重症 休業4日以上	×:極めて重大 死亡・障害を伴う			
可能性	○:めったに発生しない (5年に1回程度)	○△	○×	○○	1:極めて小さい	関係者に対策の周知
	△:時々発生する (1年に1回程度)	△△	△×	○△、△○	2:かなり小さい	関係者に対策の指示
	×:かなり発生する (6ヶ月に1回程度)	×△	××	○×、△△、×△	3:中程度	職長が確認
		×○		△×、×△	4:かなり大きい	工事担当責任者が確認
				××	5:極めて大きい	十分に訓練をした対策が必要

リスクレベル 5=十分に訓練をした対策が必要 4=工事担当責任者が確認 3=職長が確認 2=関係者に対策の指示 1=関係者に対策の周知

作業項目	手順	急所	リスクの洗い出し (予想されるミス・ロス)	可能性	重大性	評価点	リスクレベル	ミス・ロス	リスクの除去・低減のための実施すべき事項の特定 (防止対策)
(誰が)	主なステップ	作業のポイント							
ミーティング	健康状態の確認	作業責任者(職長)が確認							体調不良の作業員は規制内へ入場させない
	免許・資格等の確認	作業責任者(職長)が確認							
	KYMの実施	作業員全員で							図面を全員で確認し、埋設仮設物が無いことを確認する。
			健康状態の確認・免許・資格等の確認・光物(チョッキ・脚絆・ヘッドライト等)の充電確認・業務用ブレークの確認、入場方法・入場箇所・車両順番・役割分担の確認・車両の始業前点検、工具の確認、積み込み荷の確認(落下・飛散対策)荷締め位置、荷台のネット・シート掛けの確認。工事車両幕がロープ及び養生テープで確実に固定されていることを確認。担当者は施工計画段階でNEXCOと打合せした内容を作業員へ周知・報告すること。車両出入庫の際に、運転手は車両の周囲(上下含む)を指差し、障害物が無い事を確認のうえ、出入庫する。						
車両の点検・準備	車両の始業前点検、工具の確認	運転手、全員							
	積荷の確認	積荷の状態	走行の中荷崩れ、飛散養生。	○	×	○	×	3	トラック積載状態を確認し、飛散対策で積荷を固定・ネット養生する。
工事車両進入	工事車両進入	指定の入口から	移動中一般車両と接触する。	○	△	○	△	2	道路交通法を遵守する。区間内走行ルール・駐車ルールの厳守
工事車両進入	工事車両進入	指定の入口から	回転灯・逆走時ハザードの点灯、50km/h規制、プレート・通行券の確認、幕の設置、十分な照度の確保						
確認作業	埋設物・仮設物の確認	管理用図面での事前確認	図面、現地の確認をせず損傷させる。	△	×	△	×	4	公 作業員全員で確認する。(協議無しは保全許可済み)
墨出し	マーキング材での位置取り	ハツリ箇所の確認	墨出しを怠ることにより、ハツリ箇所を間違える。	○	△	○	△	2	品 作業員へ施工場所の説明、確認を行う。
ハツリ工・表面処理	ハツリ作業	振動工具の使用							※振動工具手順書参照
ハツリ工・表面処理	ハツリガラの飛散	振動工具の使用	飛散防止飛散対策を行わず、他の車両に傷をつける。	△	△	△	△	3	公 飛散防止用ネットを待参しハツリ作業箇所を囲う。
ハツリ工・表面処理	粉塵の撤去	フロアーの使用	ハツリ後の粉塵が残り、プライマーやモルタルの付着が悪くなる。	△	△	△	△	3	品 プロアーで粉塵を飛ばし、1箇所ずつ素手による確認を行う。
防錆処理	鉄筋クレン	振動工具の使用	保護対策を行っておらず、目に鉄粉等が入る。	○	△	○	△	2	安 保護メガネを使用する。
防錆処理	防錆剤の塗布	スプレーの使用	保護対策を行っておらず、目や皮膚に付着し疾患を負う。	○	×	○	×	3	安 保護メガネ、保護手袋を使用する。
断面補修工	モルタルの塗布	練り混ぜ時ミキサーの回転に注意	練り混ぜ時ミキサーに手を巻き込む。	○	×	○	×	3	安 手元の確認。
剥落対策工	接着剤の塗布	可使時間の考慮	可使時間を考慮せず、シート接着を行い剥がれる。	○	×	○	×	3	品 マニュアルの可使時間を厳守する。
剥落対策工	シート接着	ゴムロープ等の使用	脱泡やしわ改善を行わず、硬化する。	○	×	○	×	3	品 脱泡作業やしわの改善を行う。
剥落対策工			※詳細な施工手順についてはタフメッシュシート施工マニュアルを参照とする。						
目地埋め	管遊間部の目地埋め	コーキングガンの使用	充填ができておらず、漏水が起こる。	○	×	○	×	3	品 バックアップ材を中間地点に挿入し上下から注入を行う。
断熱材の設置	断熱材の接続	ボンド、シートの使用	ボンドやシートの接着が甘く、剥がれる。	○	△	○	△	2	公 規定量をしっかりと塗布し、塗り残しやしわ等が起きないように接着する前に確認する。
断熱材の設置	支持金具の使用	インパクトドライバーの使用	支持金具の固定が甘く支持金具ごと落下する。	△	△	△	△	3	公 支持金具のボルト締め付け後、スパナやレンチを使用し緩みを確認する。
断熱材の設置	ワイヤーロープの施工	インパクトドライバーの使用	ワイヤーロープの利きが甘く、性能を発揮しない。	△	○	△	○	2	公 断熱材にらせん状に巻き付け、端部は緩みが起きないようにしっかりと緊結する。
ます清掃	土のう撤去	周囲の清掃	止水用の土のうを回収せず、碎石が排水管内へ流入する。	○	○	○	○	1	環 作業終了後、忘れず回収する。
後片付け	積荷の確認	積荷の状態	走行の中荷崩れ、飛散養生。	○	×	○	×	3	安 トラック積載状態を確認し、飛散対策で積荷を固定・ネット養生する。
現場離脱	工事車両退出	指定の出口で一旦停止	通過車両と接触する。	○	△	○	△	2	安 通過車両の通行がないのを確認後退出。
									工事車両幕を取外した場合は専用のケースに確実に格納し車内に保管する事